
ホットニュース(平成11年度／第20号)

●今月の業界ホットニュース／～歩いて暮らせる街づくり～

経済新生対策案では、21世紀に向けた生活基盤の整備・充実として、「歩いて暮らせる街づくり」をあげている。

昭和30年代までは、どこでも歩いて暮らせる街（路面電車などの公共交通機関の利用も含めて）であったが、その後30～40年の間、車に依存した生活利便性の追求に走ったわが国の街を、旧に復するのは容易でない。

歩行者や自転車への思いにかけた道路構造令を反省し、これらに配慮した道路空間に再編し、歩きやすい歩ける街にするハード整備は事業の問題であるが、歩いて暮らせる街とは、徒歩距離に暮らしの機能が備わっていなければならない。或いは自転車や公共交通利用でその地区へのアクセスが容易である必要がある。

そこで中心市街地活性化や都心居住等の街なかの機能や構造の再編論にも繋がるが、半世紀近くかけて街そとに機能拡散してきたことを考えると、同じくらいの時間をかけて再編しなければならないのではないだろうか。

個人的には大賛成のテーマであり、多くの自治体が真剣に長期に取り組んで欲しいと願っている。

(代表取締役 堀田紘之)

●建築物と一体となった立体的な都市計画の提案

現在の法定都市計画の大きな柱の一つに「都市施設」が位置づけられている。都市施設は都市計画決定を行うことにより計画としての効力を発揮し、その区域内においては、具体的には都市計画法第53条に規定されているような建築物・構造物の制限が発生する。

都市施設の主要なものとして道路や公園があげられるが、こうした施設の「区域」はその上空や地下において占有力を発揮し、こうした空間に建築物や構造物を設置することは非常に難しくなっている。

しかし、既成市街地のように公共施設のための空間を確保することが困難な場所においては、こうした上空・地下占有の考え方を柔軟に運用することを検討してはどうだろうか。つまり、「都市計画の立体化」である。現代においては、都市のアメニティや回遊性の確保のため、建築物とともにその内部において、自由通路や広場、屋上公園などの「準公共的な空間」を整備することが求められている。こうした公共空間を都市計画法において担保出来ることは、大規模なプロジェクトの進捗が不透明な現代においては有効に機能すると考えられる。如何なものだろうか。

(第二計画室長 坂本敦彦)

●PIARC（世界道路協会） 第21回クアラルンプール本会議に参加して

～PART1： PIARC都市内委員会（C10）とは？～

世界道路協会（PIARC）は、道路分野の国際技術協力機関であり、現在では約100ヶ国が加盟している。21ある技術委員会では各分野に関するテーマで調査・研究が行われており、その成果は4年ごとに開催される本会議において発表される。このたび第21回目の本会議が、1996-99年の集

大成として10月3～9日にクアラルンプールで行われ、各国から道路関係の専門家が参加した。

弊社では今年度から都市内委員会（通称C10）の作業に携わっている。C10の活動は近年の自動車利用増加と環境問題への対応に焦点をおき、過去4年間では26ヶ国、1国際機関から約40名の専門家が共通のテーマについて5つのサブグループに分かれ（1）交通と都市開発、2）インターモーダリティ、3）交通管理とサービスの質、4）環境と住民参加、5）多様なプレーヤーの役割と責任）、研究活動を行ってきた。

日本からは東京商船大学の高橋洋二先生、早稲田大学の浅野光行先生が委員として活動された。C10の研究成果はクアラルンプール本会議の委員会セッションで発表されたが、後日レポート、インターネット、雑誌記事などの形でも公表される。（クアラルンプール本会議については、次回PART2でお知らせします。）

（都市情報計画室 三宅さおり）

●同業コンサルにおける若手の取り組み

業務の打合せ等で我々が発注先にお邪魔する際、その業務を取り仕切る者の横で協議の内容に耳を傾けつつ必死にメモを取る若手がありますが、今回はこの「若手」がアクションしている特徴的な取り組みをご紹介します。

弊社における若手の人数は、入社7年程度を概ねの基準とすると、国内技術職で該当するメンバーは10人弱といったところです。彼等は上司の顔色を窺い？作業の締め切りと格闘しながら日々を悶々と過ごしているためどうしても社内に閉じこもりがちになり、同業他社など外部と接触する機会が少ないのが実状と言えます。

そんな折、同業の若手が集まってお互いに勉強していこう、日頃考えていることや知りたい情報を持ち寄って一緒に考えていこう、という目的で任意の勉強会を立ち上げてから3ヶ月が経過しました。この会は弊社を含め5社の若手メンバーで構成し、弊社からは2名が参加しています（実は私もその1人）。同業といっても業務の内容や取り組みのスタンスは微妙に異なるため、ある問題提起に対して様々な意見が出てくるのが面白いところであり、認識をより深めそれを共有できることも大きな特徴です。

会のメンバーにはコンペをやろうとか街づくりの提案を自治体に売り込もうなど積極的な意見もありますが、例えばアルメックホットニュースをご覧いただいている方を講師としてお招きし、ディスカッションするのも楽しいかななどと思案しています。是非講義をしたい！という方がいらっしゃいましたら弊社津端（つばた） tsubata@almec.co.jp までご連絡ください。

（第一計画室 津端知也）

アルメックホットニュース（平成11年11月15日発行）

////////////////////////////////////